

もっと知りたい、健康のこと。

日赤News

静岡赤十字病院広報誌

2026年・秋冬号

vol.380

|季|刊|発|行|



【特集】

回復が早く傷あとも目立ちにくい 進化している 人工股関節手術

ほっとニュース

盛況御礼!

「しずおか健康フェスタ」に出展しました

information

第11回「しずおか日赤まつり」のご案内

しずおかクロス NAVI

輸血機能評価認定制度(I&A)の
更新認定を取得

静岡赤十字病院ボランティア募集

写真は当院で働くスタッフが毎号出ます。

今号のテーマ: 変形性股関節症

回復が早く傷あとも目立ちにくい 進化している 人工股関節手術

中高年女性に多くみられる変形性股関節症は、手術によって劇的な症状改善が期待できる一方で不安を感じている人も少なくありません。当院が積極的に提案している AMIS なら早期の回復・社会復帰が可能です。

教えて ドクター Q & A

整形外科 副部長
中根 弘孝 医師

富士市出身。学生時代は水泳、現在はバスケットやランニングを楽しむスポーツマン。静岡マラソンには毎年エントリーし、来春のレースでも自己ベスト更新を目指す。座右の銘は「信は力なり」。

Q 変形性股関節症とはどんな病気ですか。

A 股関節でクッションの役割を果たしている軟骨がすり減った状態のまま身体を使い続けることで関節が変形していく病気です。欧米人と比べてアジア人に多く、特に日本では中高年の女性に多く見られ、国内におけるX線診断による有病率は1.0～4.3%、女性に限定すると2.0～7.5%と、とても身近な病気です。一度減ってしまった軟骨は自然に元に戻ることはなく、そのままにしておくと少しずつ変形が進んで痛みが強くなり、やがて家事や仕事など日常的な動作にも苦痛が伴うようになります。

Q 手術や術後の生活が不安です。 元の生活にはどれくらい戻れますか。

A 筋肉や腱を切らないAMISでは、従来の後方アプローチと比べ圧倒的に回復が早く、入院期間も短い。手術翌日には歩行訓練を開始することもできます。退院後は自宅での療養が必要ですが、多くは術後1ヶ月ほどで日常生活に戻ることができます。また人工関節も、素材技術の進化による耐用年数向上や、脱臼しにくい構造を持つ「デュアルモビリティ」と呼ばれるタイプの人工関節も登場し、より安心して手術を受けられるようになっています。患者さんそれぞれに合わせた治療を検討しますので、気軽に相談してください。



歩き始めるとき脚の付け根が痛む、靴下が履きづらい、階段昇降や長時間歩くのがつらくなってきた……もしそんな症状が続いていれば、変形性股関節症の可能性があります。

変形性股関節症は、股関節の軟骨がすり減り関節が変形していく病気で、日本では、生まれつき骨盤側の受け皿が浅い臼蓋形成不全を背景に発症する方が多く見られます（右ページQ&A参照）。症状が軽いうちは薬物療法や運動療法、体重管理など保存的治療で経過を見ますが、日常生活への影響が大きい場合には、傷んだ股関節の表面を取り除き、人工関節に置き換える人工股関節全置換術を検討します（図1）。

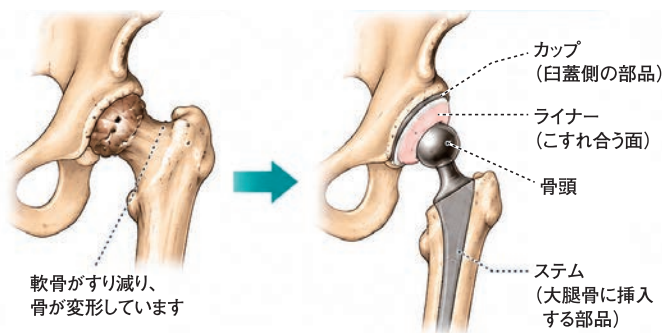
この手術は従来、主にお尻や外側の筋肉を切開して股関節にアプローチする手法が主流でしたが、術後の痛みが残ったり、筋力の回復に時間がかかったりするなどの課題がありました。そこで当院が積極的に行っているのが、AMIS (Anterior Minimally Invasive Surgery : ハイミス、前方進入法) による低侵襲手術(という方法です(図2))。

筋肉と筋肉のすき間を縫うようにして股関節にアプローチするため、基本的に筋肉や腱を切ることなく手術を行います。筋肉のダメージを最小限に抑えるため術後の痛みが少なく筋力の回復も早いので、早期の歩行開始や社会復帰が期待できます。

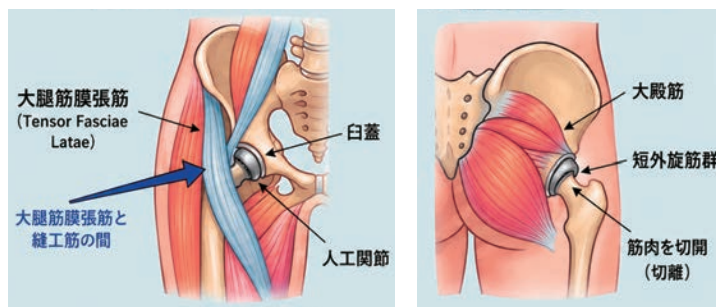
また当院がもうひとつ配慮しているのが手術の傷あと。長く付き合っている身体ですから、見た目の安心感も大切にしたいと考えています。そこで取り入れているのが、脚の付け根の皮膚のしわに沿って横方向に切開する「ビキニ皮切」という切開方法。縦方向に切開するのと比べて、傷あとが皮膚の線になじみやすく、着衣に隠れやすいというメリットがあります。

ただしももちろん、傷が小さければよい手術というわけではありません。人工関節が十分に機能を発揮し、安心して使っていたくためには、人工関節を適切な位置に正確かつ安全に設置することが何より重要です。当院では、身体への負担を減らす低侵襲、手術精度を高める正確性、そして確実な治療を提供する安全性の全てを大切にしながら、一人ひとりに適した方法を選択し、患者さんが少しでも早く笑顔で日常生活へ戻れる手術を目指しています。

変形した股関節



(左:AMIS、右:後方アプローチ)



静岡赤十字病院ボランティア募集

特別な資格や経験がなくても、患者さんの役に立ちたいという気持ちをお持ちの方、静岡赤十字病院ボランティアサークルに所属してみませんか。明るく元気な方、患者さんの気持ちを理解でき優しい心をお持ちの方を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

静岡赤十字病院 総務企画課 総務係
☎054-254-4311(代表)

※静岡県元氣いきいきシニアサポーターのポイント対象です。
※体験・見学も承ります。いつでもご相談ください。

表紙を飾った静岡赤十字病院スタッフ

薬剤師 左より

堀田知里さん、狩野真与さん、柴田涼吾さん、山下ほのかさん

ともに入職3年目を迎えた同期の4人。「患者さんとのコミュニケーションをいっそう大切に」「特定分野に強みを持った薬剤師になりたい」「他の人が気づきにくい部分を補完できるような薬剤師を目指します」など、それぞれの目標に向かってひた走ります。





健康情報をクイズ&プレゼンでわかりやすくお届け 盛況御礼! 「しずおか健康フェスタ」に出展しました



去る6月20日・21日、イオンセントラルスクエア静岡にて開催されたイベント「しずおか健康フェスタ」に出展しました。これは市民の健康意識の向上を目指して、静岡市と市包括連携協定先であるイオン、静岡市静岡医師会・静岡市静岡歯科医師会・静岡市薬剤師会などが連携して開催された催しです。会場では当院を含む16の企業・団体が健康に関するさまざまな情報を提供しました。

当院はブースとステージに出展しました。ブースでは「脳を鍛えて生き生き生活!」のタイトルで、反応速度テストや色読みテスト、脳に関する〇×クイズを実施。ブース内では小西高志脳神経内科部長が、来場された皆さまより日頃の悩みなどについて相談をお受けしました。またステージでは「正しく知って、子宮頸がんのない未来へ!〜子宮頸がん、本当に他人事ですか?〜」というタイトルのもと、市川義一副院長が子宮頸がんワクチンについて解説。がんになる原因や接種時期に関するアドバイス、国内外でのワクチン接種率の差など、身近な話題を絡めながらわかりやすく説明しました。

連日盛況となった今回の催し、来場されたお客様からは「いろいろな体験ができて楽しめたし、勉強になった」「HPVワクチン接種と検診の大切さについて、あらためて確認できました」といった感想が聞かれました。

当院では今後も、さまざまな形で市民の皆さまの健康増進に役立つ情報を提供してまいります。来場された皆さまにはあらためて感謝申し上げます。



INFORMATION インフォメーション

10月31日開催!

第11回

「しずおか日赤まつり」 のご案内



地域の皆さまとの交流を目的に2012年より実施している当院恒例のイベント「しずおか日赤まつり」。毎年人気の内視鏡の操作体験、救護服を着られるなりきり体験のほか、昨年好評だった「型染めで作る赤十字バッグ」、訪問看護の企画による「華麗に加齢!〜年齢を重ねた身体を体験!暮らしを支える訪問看護の技のご紹介〜」など、ご家族で楽しめるブースをご用意しています。皆さまのご来場をお待ちしております。



写真は昨年開催の様子

日時: 令和8年10月31日(土) 10:00~14:00

場所: 当院1号館 および2号館 1・2階他

お問い合わせ: 054-254-4311 (代) 日赤まつり担当まで

※実施に関する詳細は当院ホームページをご覧ください。
※内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。



暮らしに役立つ情報をおとどけ

しずおかクロスNAVI

輸血機能評価認定制度(I&A)の 更新認定を取得

いっそう安全な輸血医療を提供します

当院は本年2月5日に一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会による輸血機能評価認定制度(I&A)の更新審査を受審、同月25日付で3回目となる更新認定を取得しました。

輸血機能評価認定とは、施設において適切な輸血管理が行われているか否かを、同学会が定める第三者が点検し、認証する制度です。

当院では、日本輸血・細胞治療学会認定の輸血認定医1名、看護師2名、臨床検査技師3名が在籍し、輸血医療に関する専門的な知識と技術の向上に努めています。今後も輸血部長の統括の下、輸血管理委員会を中心に、医療安全推進室、各診療科、看護部、輸血部、検査部など多職種が連携し、安全かつ適正な輸血医療を提供してまいります。

